

平成30年度全国統一防火標語

「忘れてない？」  
サイフにスマホに  
火の確認」

# たかつき消防団だより

[http://www.fd-takatsuki.jp/cgi-bin/119/rescue/display\\_topics\\_list.cgi?bunrui=syobodan](http://www.fd-takatsuki.jp/cgi-bin/119/rescue/display_topics_list.cgi?bunrui=syobodan)

第 59 号

平成30年12月15日

発行

高槻市桃園町4番30号

高槻市消防団

電話 674-7980

## 高槻に未曾有の災害(地震・豪雨・台風)



榎田分団 中畑班  
班長 佐藤 央巳

平成三十年九月四日に台風第二十二号が上陸した後、約一週間に渡り活動しました。

榎田地区では数千本単位の倒木や土砂崩れにより、道路封鎖、停電、携帯電話及び固定電話不通、断水となり、情報を交換する為に連日榎田支所へ通

三箇牧分団 分団本部  
部長 川中 健史

平成三十年六月十八日午前七時五十八分ごろ、大阪府北部地震が発生しました。高槻市等で最大震度6弱を観測する非常に大きな地震でした。

地震発生当時、自宅にいた自分は揺れが収まるのを待つて消防屯所へと向かい、到着後団員に召集メー

ルを送り、車両に資機材を積み込み集合した数名の団員と出動しました。

榎田分団 出灰班  
班長 伏見 能成

平成三十年九月四日、台風第二十一号が襲来し、榎田地区に暴風が吹き荒れました。無数の樹木が倒れ、電線を引つ掛け二十

本の電柱を倒しました。出灰下条地区では停電七十八時間、断水一九〇時間、高槻市街地との交通路は一

いました。特に通行止めの区間や時間、復旧状況などは頻繁に変更になるの

で、その都度自治会長や団員同士連絡を取り合いま

した。又、高齢者の多い地域ということもあり、住民の安否確認を行いました。同

じ自治会の中でも組が違えば顔と名前が一致しない方も多く、日頃からどなたがどこのお宅に何人住んで

を持たせ二手に分かれて敷地内の被害状況と瓦礫の散乱場所の把握を行い、報告のあった場所へ移動しながら撤去作業を続けまし

た。終了後は、自治会の要請で市役所と消防本部へブルーシートを取りに行き住民へ配布しました。屯所の備蓄を含め用意したブルーシートは全て無くなり

ました。今回、初めての地震災害活動だった為に多くの反省点がでしたが、それらを団員全員で共有し、これからの訓練に生かしていきたいと思います。

幸いとの見方がある一方、職場から帰宅できない住民が続出。翌朝時点の榎田分団でも約十名しか在宅

せず、うち六名がいた出灰地区では他地区への移動も通信も叶わず、出灰班が機能不全でした。携帯電話が通じていた

いのか把握しておく事がいざという時の対応に必要だと感じました。安否確認の際、屋根にブルーシート

をかけられない方や薬を買いに行けない方がいました。役場や駐在さん、団員と連携して対応するこ

とができました。今回の貴重な体験を活かして、今後の地域の安全の為に尽力していきたいと思



阿武野分団 霊仙寺班  
班長 樋口 崇之

六月十八日に大阪府北部地震が起き、高槻市を中心に甚大な被害が出まし

た。平成三十年七月豪雨、

高槻分団 森本 祐記夫  
班長 森本 祐記夫

平成三十年六月十八日の朝、大阪府北部地震が発

生しました。発生時間が通勤、通学時間とも重なり、都市機能はストップし、市

内の鉄道、道路などは大混乱しました。高槻市内の被害は甚大で、二名の方が亡くなり

阿武野分団 分団本部  
部長 東 輝夫

本年度は日本各地で地震・台風・水害と大変な災害が立て続けに発生して

おります。高槻市におきましても、大阪府北部地震そ

して強い台風と、自然災害の恐ろしさを身をもって体験致しました。

その中でも、今回の台風第二十一号の強風による担

当地域内の被害は、地震で受けた被害が十分に癒え

ぬままの状態の上に、上積みされたかの様に、大きなものになったと思います。担当地域内におきまし

た。九月四日には台風第二十一号と「何十年に一度」とい

われる災害が立て続けに襲いました。

霊仙寺班は、地区の人口減少に伴って団員の確保が

難しくなっており、現在三名で活動を行っている。し

かし、いずれの場合も迅速に対応に当たることができ

ては、三カ所で樹木・ブロック・土塀等の倒壊による

道路の封鎖が発生し、台風の通過直後に消防団に倒

壊物の撤去の応援要請があり出動致しました。当日

出動できました人員では途方に暮れるような状態

でしたが、地域の方々の協力のもと、日没直後には

三カ所全ての道路の通行が可能状態に復旧する事ができました。

地域の方々の協力無しでは早期の復旧は困難な状態であったと思われ、

今後も地域の方々と連携・協力する事の重要性を強く感じました。

両の通行を確保したり、数百メートルの距離を飛来し

てきた大きなトタンを救助ロープで固定して二次被害

を防ぐなど、的確な活動を行うことができました。

日ごろの訓練や定期点検、備品の管理が重要であることは言うまでもあり

ませんが、地球規模での気候変動が指摘されるなか、





